opusdei.org

仕事の聖化とは(I)

2023年2月、ローマにて行われた属人区長フェルナンド・オカリス師による仕事の聖化についてのクラスの内容を連載します。

2024/02/01

私たちの聖化の蝶番

創立者が仕事のことを「私たちの聖化の蝶番(ちょうつがい)」と言ったことを思い出します。すべてはその周りを回転するからです。そして仕事と共に、ご聖体(それはキリス

ト者の生活の中心であり根源です。 は、私たすとの親子関係は、私たする要素でする。 性のすべてを要約するしてを要れてきればないです。 事は聖化されずる自然のる現実ではしていてする。 は事は価値のある現実がよる。 は望もしていてするが望むないないながです。 は望もしている人がある。 は望もいようがよれにかられば望もいよう、 をする人やおすいよう、 をする人やおけいよう、 をする人やおけいよう。 はいたがいたがある。 はいたがいたがいたがある。 はいたがいたがいたがいたがある。 はいたがいたがいたがいたがある。 はいたがいたがいたがいたがいたが、 をするとする。 はいたがいたがいたがいたが、 はいたがいたがいたが、 をするとする。 と大きな意味を持ちます。

知識の香において創立者は言います:「キリストが仕事に従事されたとって、仕事にとって、私たちにとってはいたものであると同時でありなったのであるとなったのであり、聖化の手段であり、聖化され得ると共に聖化されのです」(『知識のたらす現実なのです」(『知識の表』47番)。私たちはこの言葉をよ

く知っており、また黙想し使徒職的 活動において説明したことでしょ う。そしてこの言葉は(神との対話 を構成するすべての事柄と同様 に)、私たちがそれをますます深く 理解し、そして何よりも、私たちが それをさらに良く生きるためのもの です。

この聖ホセマリアの言葉のいくつか の側面に焦点を当てましょう。1つ 目の側面(それは明白で主要な側面 です)は、人は仕事をしている間に 聖化できるというだけでなく、仕事 自体が聖化できるということです。 一見この区別は重要でないように見 えますが、実のところ重要です。什 事の聖化とは、仕事という人間的現 実に何かを付け加えるということで はないということです。例えば、こ の作業をする間、沢山の射祷を唱え るといった形です。射祷を唱えるの は良いことですが、そういうことで はありません。仕事の聖化とは、私 の仕事の実践において私自身を聖化するということです。つまり、働くという行為自体が私を聖化するということです。

厳密に言えば、仕事の結果は聖なる ものではありません。机はどんなに 良く作られていても、机自体として は聖なるものではありません。しか し机を作るという行為は聖なるもの になり得ます。類似的な意味で、仕 事の結果は聖化されたということが できます。それは付加価値が与えら れたという意味においてです。しか し、根本的に、神の恵みによって聖 化することができるのは、働くとい う人間の行為です。行為が聖化され ることによって、行為を実現する人 自身が聖化されます。ですから「仕 事の聖化という行為」と「什事にお いて自身を聖化する」ということは 繋がっています。

3つ目の側面は、他者を仕事によって聖化するという側面です。それは、聖化された現実が、聖徒の交えりを通して、全世界に影響を与えることができるいう意味においてです。またそれを使徒職的意向の意味においてです。つまりそれは他者を聖化するための道具になるということです。

ですから、仕事の聖化とは、働くという行為を聖化するということです。そしてそれは人の行為です。それゆえ行為が聖化されれば、人自身も聖化されます。そしてこのことにより、聖徒の交わりを通して、世にと聖化することが可能です。単に仕事を捧げることによって、すでに他者の聖化に影響を与えています。

これらの3つの側面の中で、どの側面が根本にあるでしょうか?もちろん、それは働くという行為を聖化す

ることです。なぜなら、私が行為を 聖化するとき、私は自分自身を聖化 するからです。これが他の2つの側 面の根本にあります:私が働くとい う行為を聖化すればするほど、私は 自分自身を聖化し、他者を聖化する ことができます。

続きを読む

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shigoto-no-seika-towa/(2025/12/11)